

春告草

令和3年度 第2号 令和3年5月19日 進路指導部発行

2021年入試を振り返って

2021年入試は、大学入試改革と新型コロナウイルス感染症により、たびたび変更される制度や入試方法に翻弄された受験であった。このような社会の状況は、2022年入試も続くことが予想される。落ち着いて、情報を確認し、できることに全力で取り組んでいくしかない。

以下、2021年入試を振り返っていこう。

※これらの集計データは、旺文社「教育情報センター」ならびに
文部科学省資料を基にしている。

【国公立大】

志願者数は全体で、前年（20年）に比べ3%減（グラフ①）であるが、後期は2%減と減り幅が小さかった。

新型コロナウイルス感染拡大（以下、コロナ禍）に伴う、かつてない地元志向の強まりと、経済面の不安による国公立大志向の強まりを、大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の平均点アップが後押しし、やや強気で、しかも最後まで粘ろうという傾向が見られた。同時に、前年の反動（志願者増減や倍率の変動による）も顕著に見られた。

●関東・甲信越地区 地区全体で志願者5%減。コロナ禍に伴い首都圏が敬遠された模様。

東京大（2%減）では、最難関の文科一類（10%減）・理科三類（7%減）が減少した。また、一橋大は微増（1%増）だが、後期募集停止の東京工業大は大幅減（15%減）となった。準難関大学では、国公立大で志願者数トップの千葉大（13%増）と、東京農工大（16%増）が大幅増。前期の一部に総合選抜（文系・理系の一括募集）を導入した筑波大は微減（2%減）、埼玉大（1%増）・東京都立大（2%減）もほぼ前年並みを保った。一方で、東京外国語大（19%減）・横浜国立大（45%減）は大幅減。横浜国立大は、コロナ禍対応で今年度は2次を取りやめたことで敬遠された模様だ。

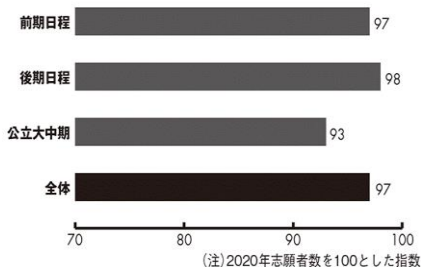
この他、やはり2次を中止した宇都宮大（14%減）、学外試験場を全国展開する都留文科大（13%減）や、新潟大（13%減）・山梨大（14%減）が大幅減。一方、前年の反動で茨城大（12%増）・群馬大（10%増）が大幅増、横浜市立大（9%増）も増加した。

【私立大】 難易を問わず大幅減が続出 立教大は増加

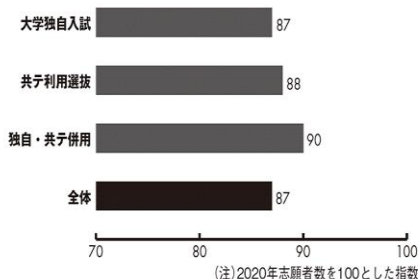
2月24日現在の、主に2月入試の志願状況（集計数：207大学・約265万人）を見ると、志願者数は前年（20年）に比べ13%減。コロナ禍による大都市圏敬遠、経済面の不安による併願数絞り込み、学校推薦型選抜の合格者増、専門学校への流出など、複合的な要因が影響したと見られる。

選抜方式ごとに見ていくと、大学独自入試で13%減、共通テスト利用選抜も12%減（グラフ②）。共通テスト前に入願を締め切る方式で減少が目立ち、2～3割減も珍しくない。

グラフ 2021年国公立大一般選抜
① 日程別志願者状況



グラフ 2021年私立大一般選抜
② 方式別志願者状況 (2月24日現在)



●首都圏

難関～準難関大学では、全学規模で共通テスト利用に傾斜した入試改革を行った5大学のうち、立教大（7%増）・学習院大（1%増）は志願者増、上智大も前年並みを保ったが、青山学院大（31%減）・早稲田大（12%減）は大幅減と明暗が分かれた。中央大（9%減）・東京理科大（13%減）・法政大（12%減）も大幅減の一方、慶應義塾大（5%減）・明治大（4%減）は小幅な減少に留まった。

中堅大学のうち、いわゆる「日東駒専」は、駒澤大が前年の約4割減の反動で4%増も、専修大（7%減）・日本大（13%減）・東洋大（8%減）は減少。日本大は隔年現象（19年12%減→20年15%増）といえる。この他、獨協大（21%減）・國學院大（23%減）・成蹊大（15%減）・武蔵大（23%減）の大幅減が目立った。軒並み志願者減の中で、千葉工業大（7%増）は共通テスト利用選抜の受験料を免除したため、志願者数を大きく伸ばした。

2021年度は788大学

2021年4月の学生募集を実施した、全国の大学の学部・学科数、学べる学問分野の設置状況などを集計。大学に関する基礎データとして示したい。

※これらの集計データは、旺文社「教育情報センター」ならびに文部科学省資料を基にしている。

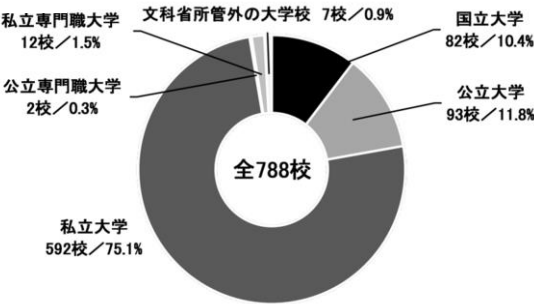
■4分の3が私立大学

2021年度の日本の大学数は、[図表1]に示した通り788校だ。そのうち、4分の3を私立大学が占めており、国公立大学はおよそ2割となっている。

■国公立大学別の学べる学問分野。

[図表2]からは、国公立大学のそれぞれの特徴が見える。上位20分野のうち、国立大学では14分野が理・工・農学系、3分野が教員養成系となっており特徴的だ。公立大学のトップは「看護学」で、「医療・保健学」が4位、「栄養学」や「食物学」も入っている。加えて「福祉学」「政治学・政策学」もある。公立大学の地域貢献や参画といった側面が見て取れるだろう。私立大学は工学系が3分野にとどまる一方、人文科学系・社会科学系のいわゆる文系分野が多数見られるとともに、「小学校・幼稚園」の教員養成課程や「児童学・子ども学」「体育・健康科学」「芸術系」などもありバラエティ豊かだ。理系を目指す場合は、国公立大を視野に入れた準備をするべきであろう。

[図表1] 2021年度 日本の大学数の内訳



[図表2] 2021年度 [国公立大学別] 学問分野別 学べる学科数[上位20分野]

国立大学			公立大学			私立大学		
学問分野		学科数	学問分野		学科数	学問分野		学科数
1	情報工学	76	1	看護学	50	1	経営学・経営情報学・商学・会計学	401
2	機械工学	71	2	経営学・経営情報学・商学・会計学	45	2	語学	290
3	電気・電子工学	70	3	情報工学	38	3	社会学・観光学・メディア学	281
4	数学・情報科学	68	4	医療・保健学	28	4	医療・保健学	280
5	応用化学	60		国際関係学・国際文化学	28	5	国際関係学・国際文化学	265
6	小学校・幼稚園課程	53	6	経済学	26	6	小学校・幼稚園課程	214
7	土木工学	52		語学	23	7	心理学	207
8	中学校課程	51	7	社会学・観光学・メディア学	23	8	文学	205
9	生物学・生命科学	49		デザイン	23	9	経済学	202
10	経済学	47	10	文化学	22	10	看護学	199
11	経営学・経営情報学・商学・会計学	45	11	福祉学	21	11	情報工学	187
	建築学	45	12	栄養学	20	12	文化学	179
	特別支援教育課程	45		建築学	18	13	児童学・子ども学	170
15	農学	45	13	電気・電子工学	18	14	福祉学	166
	物理学	43		文学	18	15	体育・健康科学	162
	医学	42	16	機械工学	17	16	芸術系その他(CG等含む)	148
16	看護学	42	17	環境科学分野／その他	16	17	機械工学	124
	社会学・観光学・メディア学	42		数学・情報科学	16	18	法学	121
19	材料工学	41	19	食物学	13	19	栄養学	117
20	化学	39	20	政治学・政策学	12	20	電気・電子工学	112
	生物工学	39		農学	12			
	生物生産・生物資源学	39						

大学入試の基礎知識(第2回)

2021 年から始まった大学入学共通テスト。国公立大志願者は原則として受験が義務付けられ、私立大も約 9 割が共通テストを利用した入試方式を取り入れている。共通テストの詳細がまとめられている「受験案内」(出願書類)は、9 月上旬から配布される。現役生は学校を通じて配布、出願することになっている。保護者や先生たちの受験ではないので、志願者本人が「受験案内」をよく読み、丁寧に、正しく記入しよう。記入上の注意などは、9 月になったら詳しく説明する予定だ。

共通テスト(本試験:1/15、16)を受験した翌日(1/17)は、自己採点を行う。自己採点の結果は進路指導部でとりまとめ、集計を行っている予備校等(本校では駿台ベネッセ、河合塾、東進ハイスクール)へ提出する(これがいわゆる「データリサーチ」)。データリサーチ集計が終わると、志望校判定の結果が出るので、参考にしながら国公立大の出願先を決定する。

私立大の「共通テスト利用」「共通テスト併用」は、共通テスト前に出願を締め切ることがある(21 年度入試は、1/15 必着が多かった)。一方で、明治大学や中央大学などは「共通テスト利用」のみの「後期日程」もあり、しっかりと得点できていれば、万が一の備えになる。

なお、追試験は病気等のやむを得ない事情で、申請が認められた場合に受験できる。共通テストの「受験上の注意」には、新型コロナウイルス感染症による体調不良時(試験当日の発熱や咳等の症状があるなど)の対応についても明記されており、手続きに沿って受験者本人または代理人が追試験の受験申請をすることができる。再試験は、天災等の事情で本試験を受験できなかった場合に行われる。2021 年共通テスト(第 1 日程)において、追試験が認められたのは 1721 人、再試験が認められたのは 118 人である。

●国公立大：一般選抜について

国公立大の一般選抜は、多くの場合が「共通テスト+個別(2 次)試験」の総合得点で合否が決まる。一部の大学は、「共通テストの得点は第 1 段階選抜でのみ使用」(東工大など)や、「共通テストの得点のみで個別試験は課さない」(昨年度の横国大、宇都宮大、信州大など)という場合もある。

個別試験は、各大学が独自に行う試験のことで、主に「前期日程」と「後期日程」、一部の公立大には「中期日程」もある。出願できるのは、各日程ともに 1 大学のみである。

出願は前期、中期、後期の全日程を同じ大学にしてもかまわないし、全て違う大学でもよい。ただし、前期で合格した大学に「入学手続き」をすると、後期と公立大中期は受験することができない。

合否判定に用いられる配点は、学部・学科によって異なる。注意すべきなのは、共通テストと個別試験の配点比率だ。個別試験の成績を重視する大学や、特定教科の配点が高い場合があるので、よく調べておこう。

【前期、公立大中期日程】

基本的には学科試験(記述)。文系学部は英語、数学、国語、社会から、2~3 教科を課することが多い。理系学部は英語、数学、理科から 2~3 教科が課されるが、東京大、京都大、一橋大などの難関大では 4 教科を課すなど、科目数、内容は大学・学部によって異なる。教育・医療系では面接や小論文、体育・芸術系では実技を課することが多い。

【後期日程】

教科数を 1~2 教科に減らしたり、小論文や面接・実技を課したりするところが多い。個別試験の負担が少ないように思えるが、後期日程を実施しない大学・学部も多い。そのため、募集人数が少なく、倍率が高い。

2021 年入試
東京外国語大学の場合
(大学 HP より)

東京外国語大学 国際社会学部	北西ヨーロッパ /北アメリカ	前期日程			後期日程		
		募集人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者数	倍率
		20	58	2.9	5	122	24.4

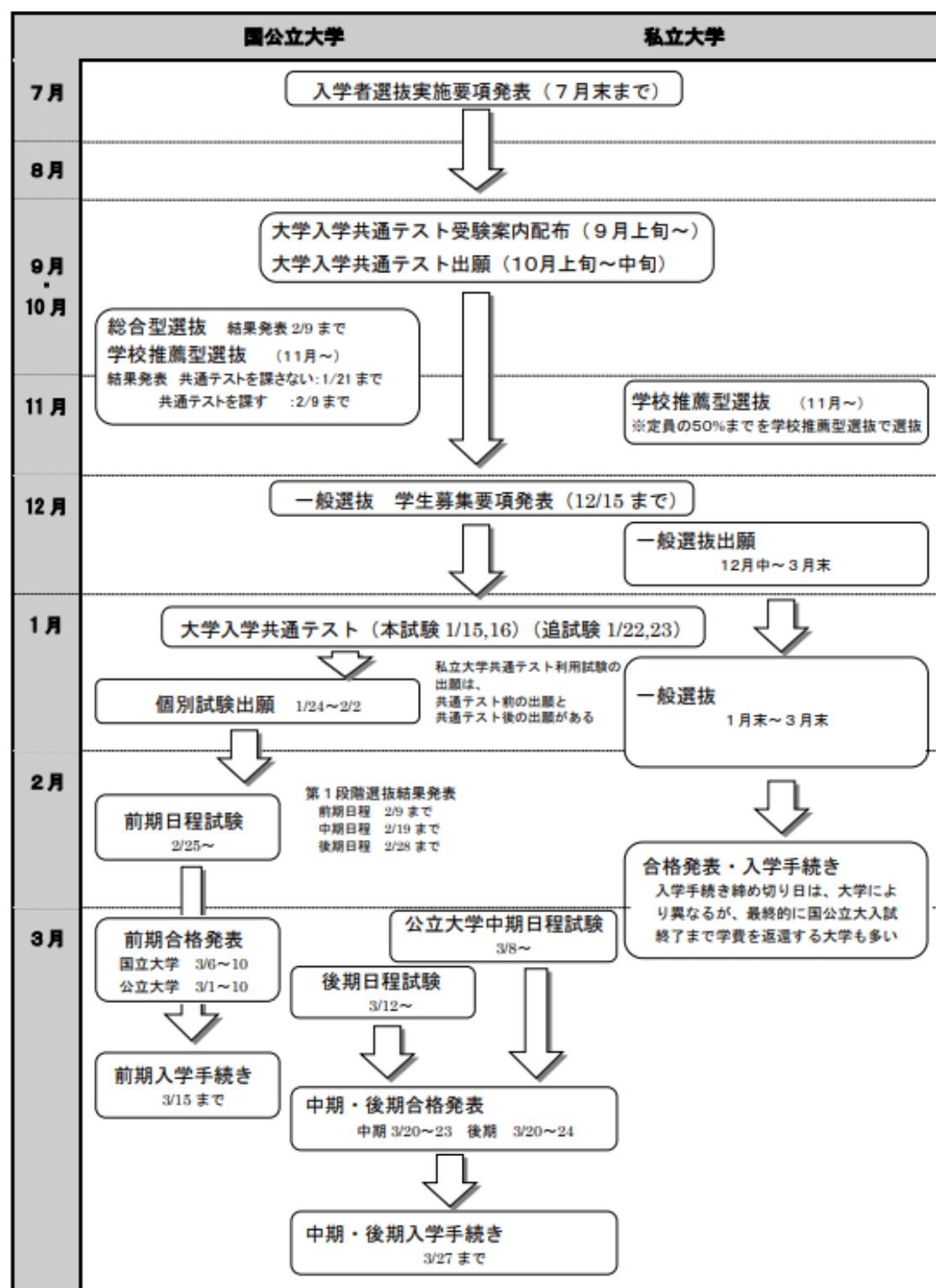
6 期生に「前期に合格した大学に入学手続きをせず、後期を受けて合格した(前期が総合理系の募集で、後期の農学部が第 1 志望だったから)」という強者がいたが、これは非常に稀なケースであり、オススメできない。第 1 志望は前期で受験するのが鉄則である。



↑ 2021 年入試のもの

■ 2022年度入試 年間スケジュール

※進路指針をよく読んでおこう。



※ 一部日程が未発表のところもあるので、募集要項などで正しい日程を確認すること。総合型選抜の出願時期は9月以降、学校推薦型選抜の出願時期は11月以降の予定である。